

令和5年度 経営改革プラン

団体名	株式会社神戸ウォーターフロント開発機構	
設立年月日	令和3年5月31日	
団体の設立目的・沿革	<p>神戸港のウォーターフロントエリアは、平成23年3月に策定された「『港都神戸』グランドデザイン」の土地利用方針に沿って再開発を進めている。ウォーターフロントのまちづくりは広範囲かつ多岐にわたり、長期に及ぶことから、全体の将来像を踏まえつつ、多様な都市機能、統一感のある街並み形成を誘導する仕組みが重要となる。</p> <p>そのため、順次形成されるエリアのマネジメントや地域活性化等の先導的役割を担い、魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成を目指すことを目的として、株式会社神戸ウォーターフロント開発機構を設立した。</p>	
団体の主な事業内容	事業名	所管局
	まちづくり事業 (まちづくりビジョン、エリアプロモーションの推進)	港湾局ウォーターフロント再開発推進課
	再開発事業 (事業要件の検討、事業実現に向けた取り組み)	港湾局ウォーターフロント再開発推進課
	公共空間活用事業 (都市利便増進協定に基づく公共空間の管理運営、民間事業者により開催されるイベント等への協力等)	港湾局ウォーターフロント再開発推進課
代表者	代表取締役社長 岡口 憲義	

役職員数 (令和6年7月時点)	取締役		監査役		職員		合計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		-	-
神戸市派遣職員	1	1	-	-		3	5
神戸市OB職員	1	-	-	-	-		1
その他	-	2	-	1	2	-	5
合計	2	3	-	1	2	3	11

財務状況(単位:百万円)	令和5年度	令和4年度	差引
経常損益	1	8	▲7
税引後当期純利益	0	4	▲4
販売費及び一般管理費	298	307	▲9
流動資産	249	221	28
流動負債	155	128	27
長期借入金(固定負債)	0	0	0
期末現金預金残高	137	87	50

■ 中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針 2025 期間中のミッション）

ミッション①	魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成
ミッション②	自立的な経営モデルの確立
ミッション③	専門人材の確保による活力ある組織づくり

■ 短期的なミッション（令和 5 年度のミッション）

ミッション①	効果的なエリアプロモーションの実施
ミッション②	再開発事業の推進
ミッション③	新たな自主事業の実践

■ 経営指標（令和 5 年度）

経営指標				令和 4 年度	令和 5 年度	前年度比増減	令和 4 年度実績中小企業実態基本調査による業種別平均値
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員 1 名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	0.747	0.078	▲0.7ポイント	0.179
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	19.87%	21.07%	1.2ポイント	23.93%
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	3.34%	0.41%	▲2.9ポイント	4.17%
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	139.16%	108.03%	▲31.1ポイント	209.09%
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	172.35%	160.62%	▲11.7ポイント	240.67%
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	44.91%	31.27%	▲13.6ポイント	48.38%
持続性	自己資本当期純利益率 (ROE)	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているか。	4.13%	0.43%	▲3.7ポイント	7.49%
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産)/当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	4.13%	0.43%	▲3.7ポイント	▲2.31%

■ ミッション工程表

ミッション名	令和5年度			令和6年度			令和7年度～					
中長期的ミッション												
魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成	マーケット調査・分析から民間投資の誘発、事業実現に向けた取り組み及び再開発のマネジメント											
自立的な経営モデルの確立	自立的な経営モデルの検討、実践			自立的な経営モデルの確立								
専門人材の確保による活力ある組織づくり	専門人材の活用による組織基盤の構築			専門人材の経験、ノウハウを生かした活力ある組織の形成								
ミッション名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション												
効果的なエリアプロモーションの実施	過去に実施したプロモーションの効果検証			検証に基づく効果的なプロモーションの実施								
再開発事業の推進	リニューアル後の神戸ポートタワー運営開始に向けた取り組み											
	次期再開発に関する事業要件の検討、事業実現に向けた取り組み											
新たな自主事業の実践	都市利便増進協定に基づく公共空間の利活用											
	有料イベント等の実施による確立した収益構造の構築に向けた検討											

■ ミッションを踏まえた団体目標

目標及び実現方法	目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)	魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成 【KPI】観光客数（神戸港エリア）：700万人（令和7年）
		・ 地域の企業等との協働による再開発のマネジメント
		・ 官民連携の運営体制（民間企業からの増資の検討や人材登用）の構築
		・ 地域に密着した都市再生推進法人として、ウォーターフロントの公共空間の活用、広告収入の確保などによる自立的な経営モデルの確立
		・ まちづくりやマーケティング等の専門人材の確保による活力ある組織の形成
		・ リニューアル後の神戸ポートタワー運営や新港第1・2突堤間水域、第2突堤基部などの次期再開発にかかる事業実現に向けた取り組みの推進
		・ 神戸空港の国際線就航や、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見据えた、陸・海・空からの観光集客の強化・賑わいの創出

■ 市支援策の活用状況（令和5年度）

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

## ■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

### （1）中長期的ミッションの達成状況

・「魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成」については、目指すべきまちの方向性を示した「新港エリアビジョン」を策定するとともに、ビジョンの実現に向け、地域企業により構成されるプロジェクトチーム会議を新たに発足した。また、港湾局や神戸観光局の情報を含め、エリアの情報発信を一元的に行うウェブサイト을新たに作成したほか、神戸ポートタワーの点灯再開に合わせて市民も参加可能なイベントや、開業60周年記念事業としてローカルフードフェスを開催するなど、神戸ポートタワーの魅力発信に取り組んだ。

・「自立的な経営モデルの確立」については、市と締結した都市利便増進協定に基づき、新たな自主事業として新港第1突堤西側緑地のイベントスペースの運営を開始し利用料収入を得たほか、市がメリケンパークのステージに設置した大型ビジョンを活用し、エリアプロモーションを積極的に行い認知を高めるとともに、エリア内事業者を対象に広告事業を開始するなど、新たな収益源の確保に努めた。

・「専門人材の確保による活力ある組織づくり」については、経営戦略専門役による、公共空間の戦略的な利活用を図るための企画検討及び運営に対する経営的な観点での助言を受け、安定的経営を目的とした事業戦略の策定に着手した。また、夜間景観アドバイザーの専門的知見を活用し、エリア内の夜間景観形成によるナイトタイムエコノミーの取り組みとして、市と連携しながらライトアップの整備拡充を進めるなど、専門人材の活用による活力ある組織づくりに努めた。

### （2）短期的ミッションの達成状況

・「効果的なエリアプロモーションの実施」については、神戸ウォーターフロントアートプロジェクトを令和4年度に引き続き開催したほか、神戸ポートタワーの点灯再開に合わせたイベントや、開業60周年記念事業としてローカルフードフェスを開催するなど、リニューアルオープンに向けた積極的なエリアプロモーションを展開した。また、ウェブサイトやSNSなど各種広報ツールでの情報発信だけでなく、フェリーや神戸空港の就航都市でのブース出展や航空機機内誌での特集記事の掲載など、幅広いプロモーションを実施した。

・「再開発事業の推進」については、新港第1～第2突堤間水域活用や第2突堤基部倉庫解体後の跡地活用など、次期再開発の具体化に向けた企業誘致活動を実施し、事業スキームの検討及び事業要件の整理を進めた。

・「新たな自主事業の実践」については、メリケンパークの大型ビジョンや新港第1突堤西側緑地のイベントスペースを活用した収益方法について検討し、事業の拡大を進めている。

### （3）市政への貢献・市民への還元状況

・地域企業や市民の意見を集約し、目指すべきまちの方向性を示した「新港エリアビジョン」に基づき、地域企業により構成されるプロジェクトチーム会議を新たに発足し、ビジョン実現に向けた取り組みを推進した。

・市との都市利便増進協定に基づき、エリアのプロモーションや各施設の案内、イベント情報を一元的に発信し、市民へのサービス水準・利便性の向上を図ることで、賑わいづくりの創出やエリアの回遊性促進に寄与した。

## ■外郭団体マネジメント推進本部の評価

### (1) 総合的意見

魅力的で持続性のあるウォーターフロントの形成に向けて、専門人材も活用しながら、企業等と協働し、各種事業を推進しており、引き続き、ミッションの達成に向けて取り組むこと。

### (2) 数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	本市と締結した都市利便増進協定に基づく施設や緑地の管理運営を開始した。 自立的な経営モデルの確立に向けて、自主事業による収益の更なる確保に努めること。
短期的ミッション	エリアの情報発信については、ウォーターフロント全体の情報発信を一元的に行うウェブサイトを新たに作成した。引き続きエリア内の事業者と連携し、多様なプロモーション活動に努めること。
団体目標の達成状況	令和7年度目標である神戸港エリアへの観光客数700万人の達成に向け、新たに発足したプロジェクトチームで議論を深め、エリアマネジメントに資する取り組みを進めること。
市への貢献・市民への還元状況	本市と連携し、まちづくりの方向性に沿った事業の実現に向け取り組みを進めるとともに、緑地などの公共空間を活用した賑わい創出事業を進めること。

### (3) 今後の方向性

団体の存廃も含めた検討を要する団体

継続的な見直しを要する団体

取り組みが着実に実施され成果が上がっている団体